



1月7日 ジュニア防災士講座 50名以上が参加 「日頃の準備」と「心構え」が必要



夏には、コロナ感染拡大により、中止になってしまったジュニア防災士講座（町地域防災課主催）。今回は、感染対策を講じて、時間を大幅に短縮しての開催となりました。

これは、地域の防災力向上を目的に企画されたものです。講師は地域防災課の渡辺大介さんです。50名以上の子どもたちが参加し、大変有意義な時間となりました。

前半の防災講座では、これまでに起きた富士河口湖町の災害や今後起きるであろうと予測されている災害に対してどのように対応していけばよいのかについて学びました。

後半は、防災工作と避難所設営。防災工作では、一人一人がペットボトルと懐中電灯を使ったランタンを作り、避難所設営では、段ボールベッドとテントを子どもたちが協力し合って完成させることができました。子どもたちが、お互いに知恵を出し合って助け合いながら取り組む姿が大変印象的でした。



メモを取りながら真剣に話を聞く子どもたち

内容を全てノートに記録した浅野颯大さん

自分一人で何とかするのではなく、協力しながら活動することを通して、共助の意識をもつことにもつながったのではないのでしょうか。



丁寧にペットボトルを切ってランタンを作る子どもたち



子どもたちの支援をしてくださる町の防災士の希代修先生



思った以上に明るくきれいに点灯したランタン



協力しながらダンボールベッドを組み立てる子どもたち



出来上がったダンボールベッドの寝心地を確かめている子どもたち



テントを完成させて喜ぶ子どもたち

この講座を通して、日頃から非常時に対する準備の大切さや万が一災害が起きたときに自分たちにできることは何かを学ぶことができたことと思います。知識を持った子どもたちが、これから地域の防災力向上のけん引役となってくことを期待しています。

今回の企画は、町の地域防災課主催によるものですが、富士山科学研究所の先生方、防災士の皆様、教育センター職員など多くの方々のお力により実現したものです。ご協力ありがとうございました。

センターでは、様々な活動を行っています

町立教育センターの大きな事業の一つに教育相談があります。相談室を訪れる子どもたちのために様々な活動を行っています。

悩み事を聞いたり、教科の学習や卓球・バトミントンなどの体を動かす活動を行ったりしています。交流活動として、来室している子どもたちが一緒に活動する場面も作っています。2 学期には、**切絵教室(講師:中央公民館長の渡辺久美子先生)**や**コキアのほうきづくり教室(講師:生涯学習課係長の渡辺浩基さん)**などを開きました。様々な人・もの・ことと関わり、心地よさを感じることで、センターが居場所になっている子どもたちも少なくありません。話をしたり、体を動かしたりする、それが子どもたちにとって大切な時間になっています。

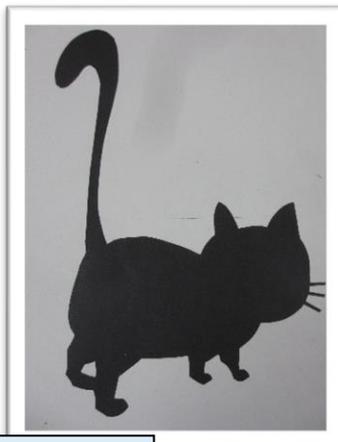
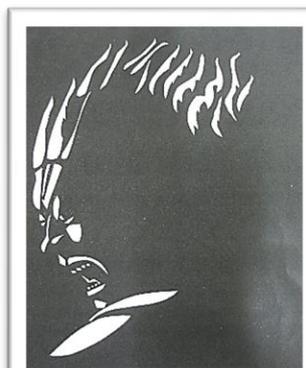
子どもたちが取り組んだコキアのほうき

また、来室している子どもたちの担任、養護教諭、管理職の先生方とも話をする機会を持ち、連携を

密にしています。さらには、就学相談員、SSW

(スクールソーシャルワーカー)、SC (スクールカウンセラー)、町の子育て支援課などとも連携をとっています。

今年も関係機関と連携しながら充実した相談活動を行っています。



子どもたちが取り組んだ切絵の作品